

平成30年度 施策マネジメントシート

施策名	生涯学習社会の実現				統括課名	生涯学習推進センター					
政策名	子ども・学び・文化				統括課長名	五十嵐 誠					
基本事業	学習情報の発信				学習の場と機会の提供						
	情報拠点としての図書館の活用										
関係課名	生涯学習推進センター	図書館									

1 施策の対象・意図・成果把握

施策の対象	市民	対象指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		立川市人口(1月1日現在)	人	実績		178,194	179,090	179,796	181,554		
				実績							
				実績							
施策の意図	○生涯にわたり自分の意思で自由に学習できるよう、生涯学習への意欲や関心を高める。 ○知的好奇心や学習意欲を満たし、地域を支える図書館づくりを進める。	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		月に数回程度以上学習活動を行っている市民の割合	%	目標	-	36.0	37.0	38.0	39.0		41.0
				実績	35	29.3	31.1	33.1	35.0		
		学習することのできる機会や場が確保できていると思う市民の割合	%	目標	-	57.0	58.0	59.0	60.0		62.0
				実績	57.3	64.2	62.3	63.3	64.0		
				目標	-	52.5	53.0	53.5	54.0	54.5	
				実績	52.2	48.4	48.3	50.6	51.3		
成果指標の考察	成果指標	成果指標の動き・目標値に対する現状等の考察									
	月に数回程度以上学習活動を行っている市民の割合	成果指標実績は27年度より増加しているが、26年度以降目標値に届いていない。同一市民が複数回利用していることで、実績値が一定の水準を保っていると思われる。									
	学習することのできる機会や場が確保できていると思う市民の割合	成果指標実績の増は、市民企画講座、団体企画講座、行政企画講座のすべてにおいて、27年度より講座数が増加していることによると思われる。									
	年に数回以上図書館を利用している市民の割合	前年度比0.7%の増加となったが目標値には届いていない。増加については、図書館情報総合管理システムのメールサービス充実等の図書館機能強化、サービスの向上の成果と考える。									

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	市民の役割 (市民・地域・コミュニティが自ら取り組むこと、行政と協働で取り組むこと)	行政の役割 (市・都・国それぞれが取り組むべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動に主体的に参加していく。 学習の場や学習の機会を通じて多様な交流に取り組んでいく。 市民講座等の講師や事業の企画・準備・運営に関わり、学習の成果を地域社会に還元していく。 読書習慣を身につけ、多様な価値観や自発的に調べ学ぶ意識を醸成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の参加機会があることを情報発信していく。 学習相談機能を充実し、生涯学習活動を支援していく。 地域人材、関係団体の力を引き出し、結び付け、まとめていく。 図書館機能を強化し、読書活動や調査研究活動等、生涯学習につながる機会を提供していく。 子どもの頃から読書習慣を身につける機会を提供する。
状況変化	施策を取り巻く状況の変化 (対象者や根拠法令等は今後どのように変化するか)	施策に対する意見等 (住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか)
	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年文部科学省中央教育審議会所外学習文科会における報告では、今後の社会教育行政等の在り方について、「家庭教育における学習機会の提供と地域人材の育成」を挙げている。 学習館や図書館などの社会教育関係資本は、地域社会の課題解決を支援し地域振興に貢献する役割がますます求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進審議会からは、市民の「学び」を地域づくりや地域課題の解決につなげていく取り組みを求められている。 図書館は、地域の学習拠点としての充実や、ICTのさらなる活用による情報拠点としての機能強化が求められている。

3. 基本事業の目的(対象・意図)と成果指標

基本事業名	対象	意図	成果指標(基本事業)	単位	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
学習情報の発信	市民	学びのきっかけづくりとなる情報を提供します。	① 施設予約システムアクセス数	件	971,819	1,032,753	1,094,042	1,126,882			
			② 講座情報システム紹介講座数	件	202	158	137	107			
学習の場と機会の提供	市民	学び・利用する多様な学習の場の提供をします。	③ 市民交流大学講座受講者数(延べ人数)	人	78,698	82,119	86,934	73,262			
			④								
情報拠点としての図書館の活用	市民	知的好奇心や学習意欲を満たし地域を支える図書館づくりを進めます	⑤ 年に数回以上図書館を利用している市民の割合	%	52	48	48	51	51.3		
			⑥ 図書館での企画展示開催数	開催	328	400	514	536	537		
			⑦								
			⑧								

4 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業の合計)

項目	単位	27年度決算	28年度決算	29年度決算	30年度決算	31年度決算
① 施策を構成する事務事業の数(「人事管理」分を除く)	事業	56	56	15		
② 施策事業費(施策を構成する事務事業費の総計)	千円	1,029,351	1,012,729	622,151		
③ 市民一人あたりの施策の事業費(②/人口)	円	5,725	5,578			
④ 施策人件費(事務事業の人件費の合計)	千円	571,820	560,865	353,310		
⑤ 施策コスト合計(②+④)	千円	1,601,171	1,573,594			

5 平成30年度の施策方針

・広報たちかわやホームページ、たちかわ市民交流大学情報誌「きらり・たちかわ」により、講座、サークル紹介を行い、広く市民へ生涯学習情報を発信する。
 ・「第5次生涯学習推進計画」では、市の生涯学習施策について従来からの基本理念である「生涯学習からはじまるまちづくり・ひとづくり」、「市民力でひろがる生涯学習」を基本に、学校教育と社会教育の連携を進め「学社一体」理念のもと学校と地域の活性化を図る。
 ・市民の学習活動や読書活動を支援し、地域の課題解決に役立つよう、積極的な情報発信に取り組むとともに、音楽配信サービスの開始による時代に即したサービスの強化により、図書館機能の充実と市民サービスの向上を図る。子どもの読書活動の推進に向けて、引き続き学校やボランティア団体等との連携を図る。中央図書館の統括による地区館全館の安定した運営体制を継続するとともに、次期個別計画の策定準備と指定期間更新後の指定管理者運営調整を行い、更なる図書館サービスの向上を図る。

6 施策の評価

(1) 施策の成果水準とその背景・要因	
現状の成果水準と時系列比較(現在の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？)	
実績評価	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景・要因	・利用登録期間更新(3年間)等の影響により、利用者数等は前年度を下回ったものの、年に数回以上図書館を利用している市民の割合は前年度を上回った。増加要因は、図書館情報総合管理システムのメール配信サービスの拡充等、図書館機能強化に取り組んだ成果と考える。
実績評価	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った <input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果である <input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った <input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った <input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	・前年度比0.7%の増加となったが目標値には届いていない。「よく利用している」「月に数回利用している」が0.7%増加しており、利用回数の多い利用者が増加してきた。
(3) 他団体との比較(近隣市町・都や国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は？)	
実績評価	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である <input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である <input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である <input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である <input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である
背景・要因	・社会教育施設は近隣市に比べて多い。市民の学習の場は、近隣市に比べると確保できている。 ・人口一人当たりの蔵書数、登録率は近隣市の平均とほぼ同水準だが、図書館数と一人当たりの貸出数は平均を上回っている。
(4) 施策の主な取組の総括(振り返り)	
・地域学習館等を会場とした様々な事業を実施した。運営主体としては、行政のみならず「たちかわ市民交流大学推進委員会」や「地域学習館運営協議会」、さらに「生涯学習指導協力者(市民リーダー)」、サークル、団体等が市民の立場で主体的に学びの企画・運営を行った。 ・平成28年度の新たな取り組みとして、学校支援地域本部事業を開始し、地域と学校の連携を継続的に可能とするコーディネーターの配置を行った。 ・H29年度は中央図書館の統括のもと、地区図書館全8館の指定管理者制度による管理運営の定着により、一層の市民サービス向上に努めるとともに指定管理者指定期間の更新により次年度以降の運営準備を行った。また、図書館情報総合管理システムのメールサービスの充実などの図書館機能強化とサービスの向上を実施した。	

7 今後の課題と次年度の方針

区分	今後の課題	次年度の方針(案)	事業の方針			
基本事業	学習情報の発信	・あらゆる市民が効果的・効率的に学習活動が進められるよう、情報の収集・提供を行うこと。 ・平成28年4月1日から一部の附則を除き施行された「障害を理由とする差別の解消に関する法律」に基づき、障害のある方がいつでも学習情報を享受できる環境の整備。	コスト			
			削減	維持	増加	
			向上	維持	低下	○
			成果			
基本事業	学習の場と機会の提供	・年齢等に関わらず市民誰もが、生涯に渡り学習機会を享受できる環境を整えていくこと。 ・学習館や歴史民俗資料館等の生涯学習施設が、学びの拠点として、より地域と連携・協働した役割を果たしながら有効活用されていくこと。 ・社会教育施設の整備及び長寿命化を図ること。	コスト			
			削減	維持	増加	
			向上	維持	低下	○
			成果			
基本事業	情報拠点としての図書館の活用	中央図書館の機能強化と人材の育成、保全計画保留により大規模改修を当面実施しないが施設の老朽化の進行、中央図書館・女性総合センターの適正な施設維持管理(長寿命化計画策定)等が課題となる。	コスト			
			削減	維持	増加	
			向上	維持	低下	○
			成果			
施策全体	今後の課題	次年度の方針(案)	コスト			
	・あらゆる市民が生涯学習活動情報にアクセスでき、市民誰もが自分の意思で生涯に渡り学習活動を実践していくことができる環境を整えること。 ・施設の老朽化により学習の場を失うことのないよう、施設の整備及び長寿命化を図る。 ・中央図書館の機能強化と人材の育成、保全計画保留により大規模改修を当面実施しないが施設の老朽化の進行、中央図書館・女性総合センターの適正な施設維持管理(長寿命化計画策定)等が課題となる。	・障害者やLGBT、外国人等、多様な市民が生涯学習活動情報にアクセスができるよう、対象に対し、より効果的な情報提供に努めるとともに、あらゆる媒体を活用した情報提供をする。生涯学習社会の実現に向け、動画等を活用したシティプロモーションにより、生涯学習に対する意識を高める。 ・砂川学習館の改修を行い、整備及び長寿命化を図る。 ・H31年度は図書館情報総合管理システム安定運用と、地区図書館の指定管理による運営に加え、指定管理館を統括する中央図書館の機能強化、人材の育成に取り組む。情報発信拠点としての環境整備、課題解決支援機能の強化にも努める。施設維持管理は緊急修繕対応で対応し現状サービスを維持する。	削減 維持 増加			

A 施策の成果水準評価及びその要因	
(1) 現状の成果水準及びその要因	
実績評価	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準 <input type="checkbox"/> かなり低い水準
要因	・学習機会や場が確保できていると思う市民割合は目標を達成しているが、学習活動を実施している市民の割合は前年度比2.0%増加したものの目標値を下回っている。 ・図書館登録者数の市民割合は微減だが、図書館を利用している市民の割合は前年度を上回った。
(2) 次年度に向けた成果水準の向上余地	
実績評価	<input type="checkbox"/> 成果向上余地は高い <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地はどちらかといえば高い <input type="checkbox"/> 成果向上余地はどちらかといえば低い <input type="checkbox"/> 成果向上余地は低い
要因	・多様なライフスタイルや多忙化等により学習活動の場があるにもかかわらず、実際に学習活動に参加していないもしくはできないのではないかと判断する。 ・システム更新後の安定運用に伴うサービス内容の向上や適正な施設管理とともに、所蔵資料の充実や企画展示開催、図書館ツイッターなどを活用した積極的な情報発信に努める。
(3) 次年度に向けた成果水準の向上余地	
実績評価	<input type="checkbox"/> R1(成果向上に向けて市がほぼ単独で実施) <input checked="" type="checkbox"/> R2(成果向上に対して市民や事業者の協力のもと市が主体的な役割を担う) <input type="checkbox"/> R3(成果向上に対して国や都、市民が主体的な役割を担い、市は間接的な役割) <input type="checkbox"/> R4(成果向上に対して市民や事業者が主体であり、市は関与が少ない)
要因	・生涯学習関係施設は近隣市に比べて多い。市民の学習の場は近隣市に比較すると確保できている。 ・引き続き所蔵資料の充実や企画展示開催、図書館ツイッターなどを活用した積極的な情報発信により、くらしに役立つ図書館の周知に努める。

B 今後、重点的に取り組むべき事務事業(新規・充実)			
基本事業名	事務事業名	次年度予算額の増加事由	予算額(千円)
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額

C 今後、見直すべき事務事業			
基本事業名	事務事業名	次年度予算額の削減事由	予算額(千円)
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額
			H30予算額

D 上記「B 今後、重点的に取り組むべき事務事業」、「C 今後、見直すべき事務事業」以外に特に課題のある事務事業とその事由		
基本事業名	事務事業名	事由